【はじめに】目に見えない感染症と立ち向かったわが大学の軌跡

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-09-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 神里, みどり メールアドレス: 所属:
URL	https://opcnr.repo.nii.ac.jp/records/411

はじめに

目に見えない感染症と立ち向かったわが大学の軌跡

学長　　神里　みどり

このようなSFのような事態を誰が予想したであろうか？　今となっては当たり前の日常になってしまったが、2020 年の始まりは、100 年に一度の災禍と言われる新型コロナウイルス感染症の脅威で、これまでの私たちの日常を一変させ、新たな世界に突入した。

2020 年 4 月 1 日の新学期の開始、それはまさに道なき道をゆく新たな教育展開の始まりであった。大学は学生が集まって学びを集う場、しかし、感染予防のために集ってはいけない場になってしまった。どのような事態になっても学生の学びを止めることはできない。過去の歴史からも戦時下であっても教育は続けられてきた。これまでの大学での学習環境が集わない学習形態、接触しない学習形態に大きく変更された。瞬く間に大学という建物空間がゴースト化してしまった。

わが大学は、看護の人材育成を目指す大学である。看護は直接触れ合って、対面で会話をして、ケアを学ぶ実践的な学問である。それを全面オンラインのみの遠隔教育、さらに感染状況を配慮しての対面とオンラインを併用したハイブリット型で行う必要があった。これまでの教育方略を覆す発想の転換を余儀なくされたのである。脱皮しない蛇は滅びるといわれるが、ものの見事に新たな学習形態と教育形態が教員によって再構築された。その教員の底力には、ただただ敬意を表するしかない。通常の２～３倍の時間をかけて作り上げられた新たな教育方略は、創造性豊かな内容で、学生の思考過程に役立つのはもちろんであるが新たな発見につながった。もちろん、遠隔教育の限界もあるが、逆にハイブリットのメリットも浮き彫りになり、今後の教育方略の改善に活かせる手がかりをみつけることができた。

本稿で、コロナ禍での 2 年間の教育実践の方略と地域貢献の実績を各教員に簡潔にまとめていただいた。本来ならば１枚にまとめられる内容ではないが、紙面には、各教員の創意工夫された教育や地域貢献のエッセンスが述べられている。その叡智を次の世代に引き継ぐ手段としてこの企画は素晴らしく、企画を担当した紀要編集部会長、ならびに多忙な中、執筆していただいた教員の皆様には心より感謝をしたい。

そして、もう一つ感謝したいのは初代学長が本学のミッションとして遠隔教育を重要視し、大学として大学院教育や継続教育で、遠隔教育を発展させてきたことである。この長年の実績のおかげで、遠隔教育への導入も他大学に比べてハードルが低く、適時に対応できたのではと自負している。改めてこの大学を作り上げてきた先人たちの力に感謝の意を表したい。まさに、大学は１日にして成らず、である。これまで培ってきた叡智のレンガを積み上げながら新たな教育・地域貢献に繋げていってほしいと願っている。

最後に、多忙な中で、初のホテル療養支援や保健所支援、入院待機ステーション開設支援、ワクチン接種の協力支援など、多くの教員が地域の中で尽力していただいた。そして何度も口にするが、ある保健所の所長が声を振り絞って語った言葉が忘れられない。「涙がでるぐらい大学の支援はありがたかった」と。この言葉は、皆さんの協力の賜物であり、一生の宝として私の胸に刻まれている。この紙面を借りて、全教職員にお礼を申し上げたい。みんなで力をあわせて立ち向かったこの軌跡を一生忘れることはない。